

## 神による報復

オバデヤ書

主の日が万国の民に臨むのは近い。あなたがしたようにあなたもされる。  
あなたの報いはあなたのこうべに帰する。(15)

オバデヤ書はイスラエルに隣接するエドムの国に対する神の審きを記した書で、旧約聖書の中で最も短い書となっています。エドムはヤコブの双子の兄エサウの子孫で、エドム人はヤコブの子孫であるイスラエルの民を常に悩ます存在でした。

この預言が語られたのは、エルサレムがバビロンによつて占領された後のことと思われる。エルサレムが滅亡したとき、兄弟国であるエドムはそれを喜び、助けるどころか自分たちもエルサレムを荒らしたのです(13、14)。このようなエドムの態度に対して、神ご自身が彼らに罰を与えると言言されたのです。「あなたがしたようにあなたもされる。あなたの報いはあなたのこうべに帰する」。主はここで、背きの罪のために神に打たれて滅ぼされたイスラエルについて、「わが民」(13)と呼んでおられます。主にとつてイスラエルがご自分の民であることに変わりはなく、他の国々がイスラエルに危害を加えることを見過ごしにはされないのです。ご自分の民に代わつて、主自ら彼らに報復すると宣言されました。

わたしたちも神を信じない周りの人々からその信仰のゆえに嫌がらせを受けたりすることがあるでしょう。そのとき、主は黙つて見ておられる方ではありません。「わが民」への攻撃は主ご自身への攻撃と受け止め、主がその悪に報いられるのです。